

山と電気の風景論 ③

立山連峰～対照的な雄山、劔岳。黒部渓谷の源流～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

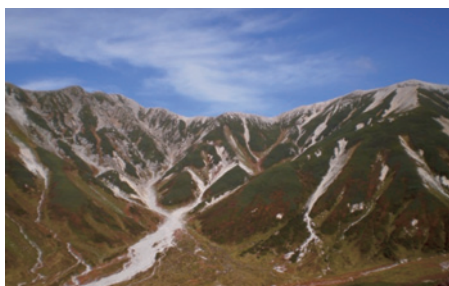
今年の5月GWでは今回紹介の立山連峰でも滑落事故が何件か起きている。まず冒頭に、残雪で滑る3000m級登山は極力避け、7～9月の雪のない好天時の登山を心がけてほしいことを改めてお願いしたい。

さて、日本海側から見ると「天地創造」の神々が宿る山脈のように聳える立山連峰。地元伝説では開山は8世紀頃で、古来、篤く信仰されてきた。山岳地帯の源流からミネラルなど栄養分豊富な水資源を、渓谷を経て黒部川などより富山湾に注ぐ。湾の入善町に、幼少の頃、祖母の実家を訪ね、ホテル烏賊、寒ぶりなどの新鮮な魚介類を味わったことも忘れられない。

立山連峰では天国は雄山、地獄は劔岳と対照される。

雄山3003m登頂だが劔岳撤退(平成25年8月)

雄山は富士山、白山と並ぶ三大霊峰で修験者が多い。頂上には厳かな神社があり、登山家も神官からお神酒をふるまわれ安全祈願のみそぎのお祓いをしていただける。雄山の直下には、関西電力が延べ



尾根の右側・雄山～左側・真砂岳方面に縦走



劔山荘の奥が劔岳

1000万人、7年の歳月の苦難のもとで破砕帯を切り開いた黒部ダム(第四発電所33万5000kW)を擁してアルペンルートが走る。

雄山から先の縦走路を辿る登山者は少ない。しかし経験を積んだ登山家は、大汝山等を縦走して、日本最難関と畏怖されてきた劔岳を目指す。

筆者が劔岳を目指したのは三回。最初は東京電力に入社した20代である。営業支社の先輩山岳家の指導を受け、西穂～奥穂高岳を縦走した後、次の標的・劔岳にチャレンジしようとした。しかし一回目は、台風到来で諦めた。二回目は、だいぶ経って三年前の8月末。行きは東京～富山、立山ケーブルカーで、帰路は室堂～東京の高速バス。室堂小屋(2450m)に到着した夕方は、強風と雨にたたられ、ずぶ濡れになった。

翌日は雨天後、曇りの天気予報に、部屋で一緒だった九州の登山者と同行を決行。雄山に着くまで一ノ越を経ても視界が見にくい。途中の残雪を横切ってひたすら歩を進め雄山の立山神社に着き、お祓いの後に鋭角の岩壁の築いた鳥居をくぐり雄山3003m登頂。ここで先へ進むか、引き返すか決断を迫られ、仲間と行けるところまでとした。

大汝山3015mまで視界2m、強風でガレキの縦走路はきつい。その後は、天候が回復し真砂岳、富士ノ折立までは歩きやすくなった。圧巻な黒部ダムを下に、正面に後立山連峰(五竜岳、鹿島槍、爺ヶ岳)を見ながら別山乗越を越えつつ下り、岩肌を縫うようにして劔沢に下り、13時に劔山荘着。ゆっくりと休養し明日を目指す。雨のなか山小屋の登山家は、たった3人。一人は本日登頂した者。落石と鎖が滑り危険だったと聞き、気持ち引き締まる。

翌日は、猛烈な風雨。山荘の主に相談し、撤退を決断。室堂まで雷鳥を時々見ながら、火山岩やガレキを踏みながら劔御前山荘を経由し、最短の雷鳥坂を走り下る。5時間ウォーク。室堂のホテル立山で着替えバスで東京直行。

【行程】

1日目

- 07:20 池袋発(直通バス)～13:50 富山着
- 14:30 富山～立山～室堂へ鉄道、バス利用。
- 17:00 室堂山荘着。九州の登山家と相部屋。

2日目

- 05:00 起床。朝食
 - 06:00 登山開始
 - 08:00～08:30 雄山登頂、神社参拝
 - 09:10 富士ノ折立
 - 09:45 大汝山～真砂岳
 - 11:05 別山。頂上祠で岩場に風避け
 - 12:00 劔沢
 - 13:00 劔山荘。雨用具を乾燥室。シャワー浴びる。
- 3日目
- 04:30 起床。雨天のため、劔山荘から室堂へ撤退。

再挑戦で劔岳2999m初登頂(平成25年9月)

リターンマッチは、三週間後の9月下旬。今回は、長野県側の扇沢からベースの室堂までの往復経路。室堂から一気に劔山荘へ5時間、天気は最高だ。夜は満点の星も見える。宿泊者も30人と超満員だった。

翌朝4時起床、ヘッドライ

トで暗闇を照らしながら、パーティーや単独行の方々と一服劔を経て平蔵の頭まで進む。ルートはかなり研究済みだが、道を外れないように注意する。岩場の絶壁も足場はしっかりしており、有名なカニの縦パイをハーネスを装着し慎重に歩み、登頂した。スリル満点の後に富山湾への尾根や渓谷、後立山連峰、白山連峰などのパノラマ絶景が待っていた。



絶壁を一人一人慎重にトレッキング



劔岳登頂には、軽く機能性の優れたフェザースーツ(日本原子力発電(株)開発)が役立った

帰りは、やせ尾根やカニの横ばいなどの危険箇所を三点支持で、滑落に注意した。途中、ハイマツ道を間違いヒヤリハットしたが、平蔵のコルで小休止し山荘へ戻る。朝4時半発～7時半登頂～10時山荘着。好天で汗をかいた。冷えたビール、熱いラーメンが格別だった。

劔御前小屋に向かい、雷鳥坂を下り、室堂着は14時過ぎ。好天に恵まれ、リスクを軽減し登攀したが、達成感はひとしおだった。

【行程】

1日目

- 06:00 新宿発(バス直通)～10:00頃 扇沢着
- 13:00頃 室堂着(扇沢～室堂まで関電バス等のアルペンルート)

- 16:35 劔山荘(雷鳥坂の最短コース)

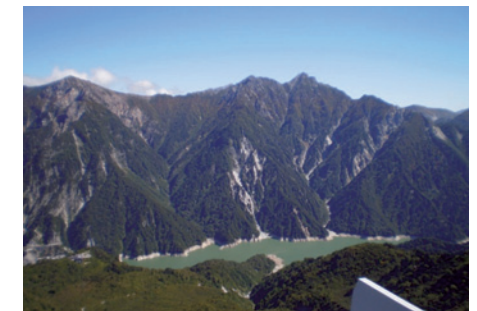
2日目

- 03:50 起床。弁当。
- 04:30 劔岳に向け出発(ハーネス、ヘルメット、防護服装着)
- 08:00 劔岳登頂～08:20
- 10:50 劔山荘～11:10
- 13:50 室堂(劔御前小屋、雷鳥坂を経て)～立山アルペンルート活用し扇沢、信濃大町へ～
- 17:30 信濃大町(直通バス)
- 21:40 新宿着

山岳地帯で電力サービス

劔岳からの帰りも関西電力トロリーバスや、黒部ダムの迫力ある放水を見て、ロープウェイ、ゴンドラに乗って中部電力側の扇沢、信濃大町へ向かった。今回の登山で、黒部ダムや山岳渓谷の安全を守り、水源、交通インフラや観光振興サービスに地道に努力している電力マンのひた向きな姿勢に共感した。登頂した平成25年夏は黒部ダム完成50周年記念で関電バスも超満員で賑わっていた。

また北陸電力が水力をエネルギー源の中核として自然保護に傾注する背景も身を持って理解した。



立山連峰から見た黒部峡谷